

木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会
第12回 協議会 議事概要

開催日時：令和4年5月12日(木)16:00~17:00

開催場所：上野フレックスホテル

【出席者】

＜木津川上流部大規模・土砂災害に関する減災協議会 構成員＞

津市 津市長（代理出席：防災室長）

名張市 名張市長

伊賀市 伊賀市長

笠置町 笠置町長

南山城村 南山城村長

宇陀市 宇陀市長

山添村 山添村長

曾爾村 曾爾村長

御杖村 御杖村長

三重県 伊賀建設事務所長

伊賀地域防災総合事務所長

津建設事務所長

津地域防災総合事務所長（代理出席：県民防災課長）

京都府 山城南土木事務所長

奈良県 宇陀土木事務所長

木津川ダム総合管理所長

津地方気象台長

淀川ダム統合管理事務所長

木津川上流河川事務所長

紀伊山系砂防事務所長

1. 開会

・伊賀市長より挨拶

- コロナ禍の影響で、この1年では書面あるいはWebでの開催が増えているが、今回は協議会構成員が集まることができ、対面での開催となった。
- 伊賀市においては、木津川の河道掘削、築堤・護岸整備等の河川改修工事によって流下能力不足の解消を図っていききたい。また、川上ダムでは試験湛水を開始し来年3月の完成を目指して進められている。完成後は上野遊水地と合わせて3点セットということで、さらに地域の減災対策が進むことを期待している。
- 木津川上流部では、昨年は大規模な浸水被害は発生しなかったが、近年全国的に水害が激甚化・頻発化していることで、今後も気候変動の影響による降水量の増大が懸念される。
- 昨年度は、今後5年間で達成すべき目標として、「水防災意識社会再構築ビジョンに基づく木津川上流部の取組方針」をとりまとめ、目標達成に向けて意見交換を実施した。
- 今回の協議会では、取組方針の確認に加え、参画機関からの防災情報に関する情報提供を行う。活発な意見交換を行い、防災力強化のヒントとなることに向けて協議を進めていききたい。

2. 審議

(1) 会長、副会長の選任について

- ・会長として名張市長の北川様、副会長として笠置町長の中様が選任された。

・名張市長より新任挨拶

- 名張川の上流には3つのダムがあり、水害が少なくなったことに安心する一方、近年のゲリラ豪雨や線状降水帯の発生を考えると、今後も引き続き流域関係機関と一体となって、ハード・ソフトに係る防災減災対策を総合的に進めていかなければならないと考えている。
- 協議会においては、「水防災意識社会再構築ビジョンに基づく木津川上流部の取組方針」に基づく取組方針の5ヶ年レビューや新たな5ヶ年の取組方針の決定、流域治水プロジェクトのとりまとめが行われた。
- 令和4年度は、木津川上流部の取組方針の新しい目標達成の中間年（令和5年度）に向けた重要な年である。協議会として引き続き、防災・減災にしっかりと取り組んでいきたい。併せて、流域治水プロジェクトについても引き続き流域一体となって進捗が図れるように進めていきたい。

・笠置町長より新任挨拶

- 笠置町は木津川上流域の最下流に位置する。国土交通省近畿地方整備局、奈良県、三重県、京都府、気象庁、上流域首長の皆様にはよろしくお願ひしたい。
- 会長である名張市長の補佐として努めていきたい。

(2) 減災対策協議会の経緯と木津川上流部の取組方針

- ・減災対策協議会の経緯と木津川上流部の取組方針について、事務局より説明を行った。説明内容について、各構成機関から質問や意見はなかった。

3. 情報交換・意見交換

(3) 参画機関からの情報提供

- ・津地方気象台より防災気象情報の改善策と取組について、事務局より水害リスクライン及びWeb ホットライン会議（案）について、紀伊山系砂防事務所より砂防堰堤事業について情報提供を行った。説明内容について、各構成機関から質問や意見はなかった。

(4) 避難に関する啓発活動について

- ・意見交換の参考として、宇陀市の「宇陀市自主放送チャンネル（うだチャン11）を活用した住民に対する防災知識の普及」、笠置町の「地区別のタイムライン（防災行動計画）の作成支援」の他、木津川上流河川事務所や紀伊山系砂防事務所の出前講座やパネル展に関する情報を共有した。
- ・各機関から得られた意見は以下のとおりである。
 - 奈良県の東部山間地域、宇陀市、山添村、曾爾村、御杖村においては、ケーブルテレビで防災情報が発信されている。ケーブルテレビは高齢者の方がよく視聴されている。高齢者の方は避難に時間がかかるため、ケーブルテレビで防災情報を繰り返し放送するにより、高齢者の方への情報発信としての効果があると感じる。（宇陀市）
 - 過去の災害に関して認識が薄れている。引き続き、水害・土砂災害に関するパネル展等を実施していただきたい。（宇陀市）
 - 各市町村の庁舎にてパネル展示を実施している。庁舎において土砂災害に関するパネル展示を実施したい場合は、お声掛けしていただきたい。また、砂防事業の動画を作成して発信していくことをケーブルテレビ等と連携して実施していきたいと思っている。（紀伊山系砂防事務所）
 - ケーブルテレビ等で防災情報を流しているが、タイムリーな情報ではない面がある。奈良県全体では、十津川村で防災情報アプリの制作が実施されている。山添村としても防災情報アプリを開発していきたいと考えている。村民と行政の双方向で情報を扱うことができるようにしたい。高齢者の方でもスマートフォンを活用できるように、スマートフォンの使い方講座を開催している。（山添村）
 - 昭和61年の災害では、国道163号や県道、JR線が不通になり、ライフラインにも被害が出て、完全に孤立した経験がある。笠置町の近年の取組として、令和3年に日本防災士会の協力を得て、4地区で避難タイムラインの作成を行った。令和4年には2地区で再度説明会を実施し、町内のすべての地区において避難タイムラインの作成が完成した。説明会を通じて、実際に避難タイムラインを作ってみて避難行動をイメージしてもらうことができ、参加した住民から高い評価をいただいた。（笠置町）

4. その他について

- ・その他に対する意見は以下のとおりである。
 - 資料に関し、紙媒体からデジタル化したほうがよいのではないか。(山添村)

5. 閉会

- ・ 木津川上流河川事務所長より挨拶
 - ここ数年間、木津川上流域にて大きな出水が発生していないため、防災対策に引き続き気を引き締めていきたい。
 - 何かあった際に、避難をスムーズに実施できるように、支援していきたい。
 - コロナのこともあり、避難所に行くだけでなく、「分散避難」という言葉が使われるようになり、垂直避難、身寄りの方の家に避難する、マイカー避難等、避難の方法にもさまざまな方法が出てくる。また、避難の最中に巻き込まれて亡くなる等、避難に対する課題もある。住民の方々に避難方法や、意識を高めていただけるように、今年度特に情報提供や啓発方法等を考えていきたい。
 - 協議会のメンバーでの情報共有の一つの手段として、**Web** ホットラインを今年度は試行的に実施していきたい。

以 上